

Ⅳ-128 環状線通行止めの交通影響

阪神高速道路公団 正員 松尾武
同上 正員 江原武

1. はじめに

阪神高速道路環状線の南行き（梅田入路・夕陽丘出路間9.3km）を昭和63年1月12日午前6時から18日午前6時まで6日間、北行き（奏町入路・出入橋間6.1km）を26日午前6時から31日午前6時までの5日間通行止めして、大規模な補修工事を行った。通行止め期間中及び直後に、交通影響を調べるため、交通量調査とドライバーへのアンケート調査を実施した。

2. 交通量調査結果

南行き通行止め初日1月12日（火）、平常日21日（木）、北行き通行止め初日26日（火）の3日間、大阪市内へ出入りする交通量を24時間測定した。

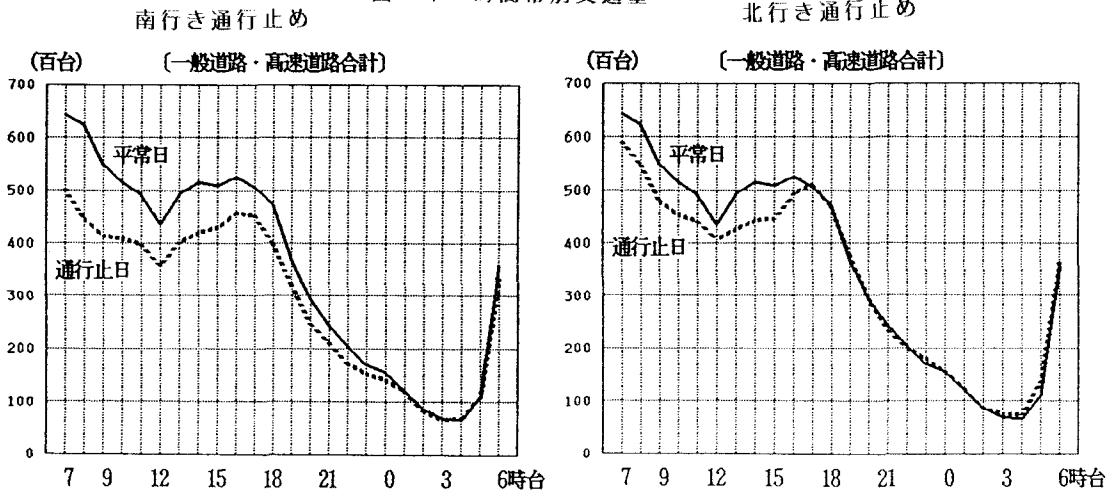
大阪市内へ出入りする交通量は、平常日の169.5万台から、南行き通行止め日は143.9万台、北行き通行止め日は160.4万台と、それぞれ25.6万台（15%）、9.1万台（5%）減少した。このうち一般道路だけをみると、平常日は111.1万台で、南行き通行止め日には109.4万台と1.7万台（2%）減少し、北行き通行止め日には115.7万台と4.6万台（4%）増加した。（表-1）

時間帯別にみると、南行き通行止め日は、昼間時間帯7～18時台での交通量の減少が著しく、特に7～10時台の各時間帯は台数で1万台以上、減少率で20%以上となっている。北行き通行止めでは、昼間7～16時台までの各時間帯で交通量が10%前後減少し、17時台以降は平常日と同程度となった。（図-1）

表-1 大阪市内出入り交通量

	平常日	南行き 通行止め日			北行き 通行止め日		
		増減台数		増減比	増減台数		増減比
一般道路	1111	1094	-17	0.98	1157	46	1.04
高速道路	584	345	-239	0.59	447	-137	0.76
計	1695	1439	-256	0.85	1604	-91	0.95

図-1 時間帯別交通量



3. アンケート調査結果

事前広報の効果と交通影響を調べるため、ドライバーへのアンケート調査を行った。2月4日に阪神高速道路の入路及び一般道路で4万枚のアンケート用紙を配布し、7,872枚を回収（回収率19.7%）した。

『工事があることを事前に知っていましたか』という質問では、99.5%の人が知っていたと回答している。『知っておられた方は、どんな方法でお知りになりましたか』（複数回答）では、74.8%がラジオ放送（交通情報やニュースなど）、62.8%が料金所の配布ちらしとなっている。『工事期間中、あなたは車の利用をとりやめたことがありますか』では、とりやめなかったが53.8%、ほとんどとりやめたが16.6%であった。『車をとりやめたことがある方は、かわりにどのような行動をとりましたか』では、他の交通機関に変更したが63.1%、予定日をずらしたが15.9%であった。『他の交通手段に変更したことのある方は、主としてどんな手段を利用しましたか』では、鉄道が84.2%であった。（図-2）

4. おわりに

環状線を11日間通行止めして行った大規模補修工事は、大きな混乱もなく終了した。関係機関並びにドライバーや企業の皆様のご支援、ご協力に感謝の意を表したい。今後は、現在集計中の事業所へのアンケート調査等もあわせ、さらに交通影響の分析を続け、都市高速道路の役割や交通管理の在り方の研究に発展させたいと考えている。

図-2 アンケート調査結果

